

福島: 行動への青写真
ジュリアン・グレッサー

日本は、今すばらしいチャンスにあたえられている。と考えることができます。中国語と日本語で「危機」という熟語は、危険と機会という二つの漢字からなっています。まず今の状況を、「機会」というところから考えましょう。

つまり、福島で起きている悲劇は、日本だけでなく世界にとっても、思い切ったイノベーション（改革）に乗り出すチャンスなのです。その原動力になるものは、自由なる勇気と、相手を思いやる問いかけと慈悲、それに探究心です。

2013年8月10日、東京電力と日本政府当局は、福島の事故当日以来、全部で27万トンを超える核廃棄物が投棄され、いまも平均して300トンが毎日太平洋に流出しつづけていること、福島はいま国際的な緊急事態にあることを認めました。この発表は、自分たちだけでは何も出来ない、知的で思いやりある効果的な支援を国際的に求める、という心からのさけび声であると思います。あらゆるレベルで危機を、革新へ向かわせる機会があるとすれば、今こそがその時です。それは東京電力だけの、日本政府だけの問題ではなく、日本中、そして世界中の私たちの問題なのです。批判だけではものごとは解決しないことは、すでにみんなが気がついていきます。

それは不可能か？

私たちは、解決は不可能であるとあきらめるつもりは、そして何も感じないようにして、深刻さを忘れようとすることはしません。しかし解決と変革はかならず可能であると、何が何でも信じることもしません。信じることは、また現実を忘れる努力でもあるからです。

重要なことは、事実を集めて全体がどうなっているのかを描くこと、そして多くの人の知をあつめて議論をすること。同時に行動の青写真を作ること、それをみんなで実行することです。

福島を知ろうとする者と福島を革新しようとする者の輪を作る

福島のような危機で起こることは、最重要の知識と経験が分断化してしまうことです。そこで「福島を知ろうとする者の輪」をつくらないといけません。これは

人と人のつながりを作るということだけではありません。分断されている知識と体験をひとつの大きな輪にするのです。新しい技術を交換する輪です。この輪のなかで、人びとは多くの分野での相好関係を見ることが出来て、お互いの考えがより緊密に、より高度になっていくのを発見するでしょう。

「福島を革新しようとする者の輪」は、関心ある市民たちが相互に学ぶだけのものではありません。そのプラットフォーム自体が活動とともに知的能力を増し、各メンバーにフィードバックをもたらします。その秘密は、自分の経験した物語にあるのです。「Fukushimaを革新しようとする者の輪」は、これらの物語を自動的に記録、分類、分析し、最重要なアイデア、学び、洞察を抽出します。輪そのものが強力な味方となって、参加者の問題解決を助けるのです。

このふたつの輪、「福島を知ろうとする者の輪」と「福島を革新しようとする者の輪」はリンクして、ぐるぐると回りながら危機を機会に変えていくのです。

パラダイムシフト

これまでのパラダイムは、福島が技術的及び科学的な緊急の問題であり、主に政府官僚と専門家たちによって扱われるべきであるという前提によるものでした。新しいパラダイムは、専門家たちの本質的な役割は認めるものの、市民のなかの科学者たちと個人の起業家たちに、この問題の扉を開くというものです。歴史的に見て、それらの市民科学者と個人起業家が、多く分野で突破口を開く先駆者になっているからです。この新しいパラダイムは、ソーシャルメディアやクラウドソーシング、そして最先端のテクノロジーから得た情報を、迅速に集積、配信、適用するなど、ほんの数年前には不可能だった能力を活用します。

行動への青写真：私たちの行動計画の要点

イノベーションサミット

「福島を知ろうとする者の輪」と「福島を革新しようとする者の輪」のリンクするところに、イノベーションサミットがあります。

東京電力と日本政府は、“国際イノベーションサミット”を企画し、その資金援助をすることで国際社会からの善意を結集するかつてない機会を持つことができます。サミットは世界の産業、科学、ビジネス、政府、学術といった各界からもっとも創造性に富む人材を招き、イノベーション・ロードマップを作成します。ロシ

アの科学者たちはチェルノブイリの経験を活かして特に意義ある貢献ができます。これにふさわしい会場として東京の国連大学があり、開催時期は早ければ早いほどいいのですが、目標開催時期は2013年1～2月を考えています。

セーフキャスト (Safecast) : 世界中の放射線データを共有しようというプロジェクトで、伊藤ジョイのGlobal Open Source Initiative for Radiation Monitoringでの提案です。

セーフキャストは、世界の放射線モニタリング分野でのオープンソース・イニシアチブの成功例です。これは12ヶ月間ですでに300万以上のデータ拠点をつくりました。このイニシアチブでは、次世代3D印刷技術を使って、原子炉、陸地、地下水面、海洋のサイト特有の関係性を分析する地理情報システム(GIS)の3次元画像を作成できます。

次の福島地震予測福島

「福島を革新しようとする者の輪」の実際的な応用としては、福島の次の地震予測があります。ほとんどの地震学者たちの共通認識は、地震は本来予測不可能であるとしています。しかし、この前提の根拠があやふやだとしたらどうでしょう？もし地震を予測する効果的な方法があるとしたら、あるいは少なくとも地震予測の複雑な問題を解決するより良い方法があるとしたらどうでしょう？

「福島を革新しようとする者の輪」にはこれまでかつて採用されたことのなかった考え方を持つフロリダ州オーランドにある国際地震火山予測センターが協力を申し出ています。

優れた危機管理

日本の危機管理者たちは外国の同等の管理者たちのように、当面の火事を消化することばかりに感心を奪われて その未来に起こりうる事柄を配慮する余裕がありません。それは元々の事故よりもはるかに深刻になることがあります。例えば、福島で二度目の爆発があった場合の影響に対する計画は何でしょうか？海中での放射能の転換点が越えられた場合はどうするのでしょうか？

「福島を知ろうとする者の輪」と「福島を革新しようとする者の輪」は、未来の危機にたいする準備をします。

結論

福島は、技術的、生態環境的、経済的、政治的、さらには精神病理学的な重層的レベルでのシステム統合性に於いて、基本的な機能停止を引き起こしています。福島が提示している問題はあまりにも複雑化しているように見えるため、日本と世界中のほとんどの人々は、もうなすすべがないと思っています。この状況はダイナミックで危機的であり、ますます絶望的になっていますが、これは危機を革新へ向かわせる改革への理想的な状況でもあるのです。

そのことを理解する世界各地の探究者たちが会話に参加できる道を開ければ、それから得られる成果は計り知れません。自然災害の新しい予測法と効果的な救済策。創造とイノベーションの新戦略。賢い技術の新しい使用法。開かれたイノベーションなどさまざまな面での成果が得られるでしょう。

創造力と他者への慈悲は、革新への真実の武器です。それは創造性を分かち合える共有の場（クリエイティブ・コモンズ）を作り出します。

多くの人びとは、それは実現不可能だとはねつけます。恐怖は不確実性を敵に回します。しかしその代わりに、もし不確実性こそが、あらゆる創造性の突破口であるとしたらどうでしょう？もし私たちが意識的にこの突破口を一緒に突き抜け、この危機に際して私たちの洞察力を働かせれば、未来の歴史家たちは福島を日本の21世紀ルネッサンスの始まりとして振り返るでしょう。

.....
 © Copyright, Julian Gresser, August 2013; all rights reserved.

ジュリアン・グレッサーは国際弁護士、発明家、企業家、交渉の専門家であり、70年代に同志社大学で強弁し日本語に堪能。日本に関する専門家として活躍。彼はカーター政権中に米国国務省のリチャード・ホルブルック国務次官補、日本の首相官邸付き顧問（大平正芳首相政権中）、そしてヨーロッパ委員会と各国政府の上級顧問を務めました。彼はハーバード法科大学の三菱客員教授を二度務め、藤岡宏一郎と森嶋昭夫との共著『日本の環境法』（MIT Press, 1981）などの著作があります。最近出版された著作『混乱の中の水先案内-探究者の心』は、“酷い”環境問題と社会問題の取り組みへの青写真を提供しています。『混乱の中の水先案内-探究者の心』は、彼が共同開発した賢いプラットフォームに基づく世界で最初の“生きた適応性あるマルチメディア本”（LAMB™）です。

<http://www.amazon.com/Piloting-Through-Chaos-Explorers-ebook/dp/B00DW7RDC6>